Livel Altib

ARTIFICIAL INTELLIGENCE



Pytoreh # Deep Learning



講座の内容

第1講. イントロダクション

第2講. PyTorchで実装する簡単なディープラーニング

第3講. PyTorchの様々な機能

第4講. 畳み込みニューラルネットワーク(CNN)

第5講. 再帰型ニューラルネットワーク(RNN)



第6講. AIアプリのデプロイ

今回の内容

- 1. 第6講の概要
- 2. 人工知能アプリ開発の概要
- 3. モデルの訓練
- 4. 開発環境の構築
- 5. Flaskによる画像識別アプリ
- 6. Herokuへのデプロイ
- 7. 演習
- 8. 質疑応答

教材の紹介

• Pythonの基礎

・第6講の教材: train_cnn.ipynb

classifier (フォルダ)

・第6講の演習: exercise.ipynb

ハッシュタグ

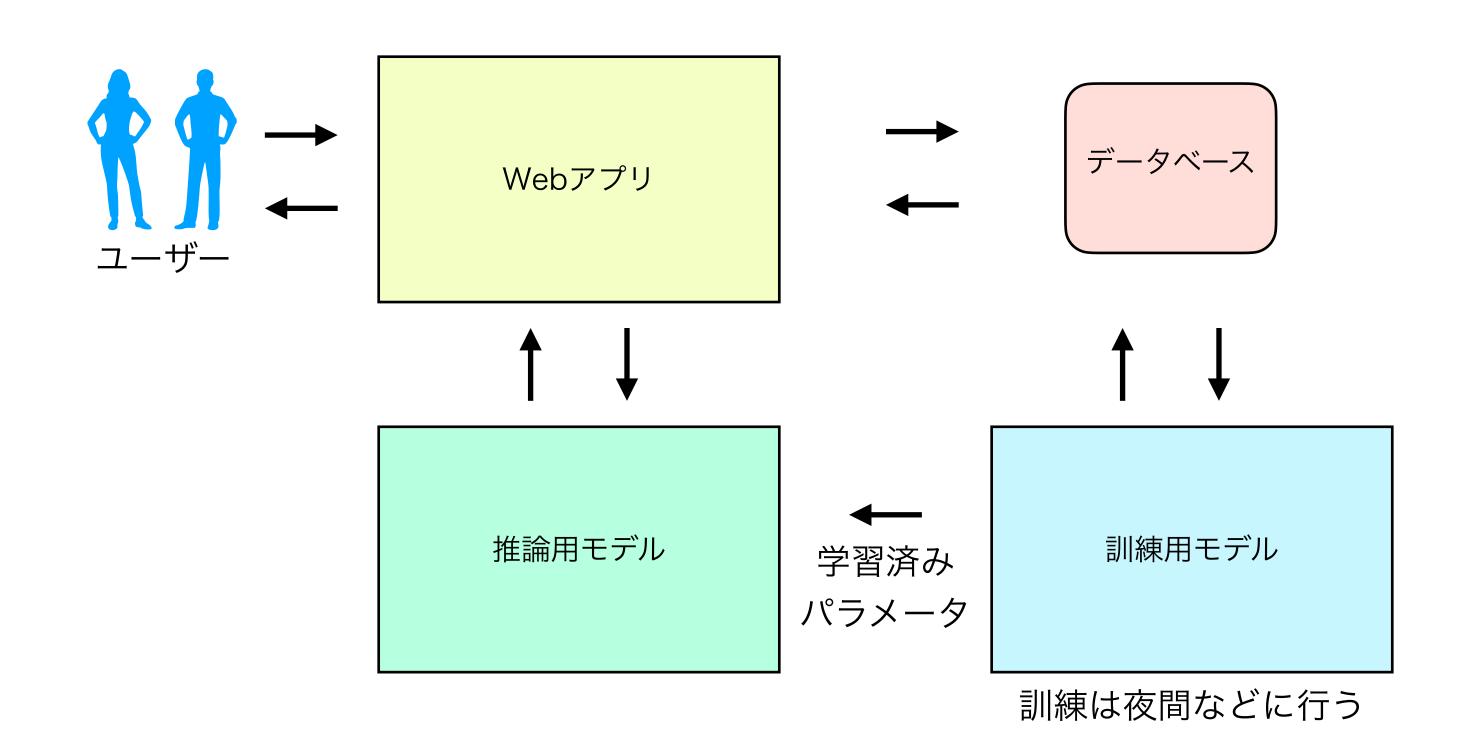
#Live人工知能

演習の解答-第5講-

https://github.com/yukinaga/lecture_pytorch/blob/master/lecture5/exercise.ipynb



人工知能Webアプリの構成例



PythonのWebアプリケーションフレームワーク

Flask

→中小規模開発向けの軽量フレームワーク。シンプルでカスタマイズ性が高い。

Django

→ 比較的大規模な開発向け。様々な汎用的な機能が最初から用意されている。

Bottle

→ 1つのファイルだけで構成された軽量フレームワーク。学習コストが低い。

Tornade

→ 非同期処理が可能。ユーザーへの長期接続が必要なアプリに適している。

• etc...

Webアプリのインフラ

Heroku

→ PaaS (Platform as a Service) の1つ。運用を意識せずに手軽に

Web サービスを公開できる。Gitを利用してアプリをデプロイする。

Google Coud Platform (GCP)

→ Al Platformが充実。無料枠があるがクレジットカードの登録が必要。

AWS

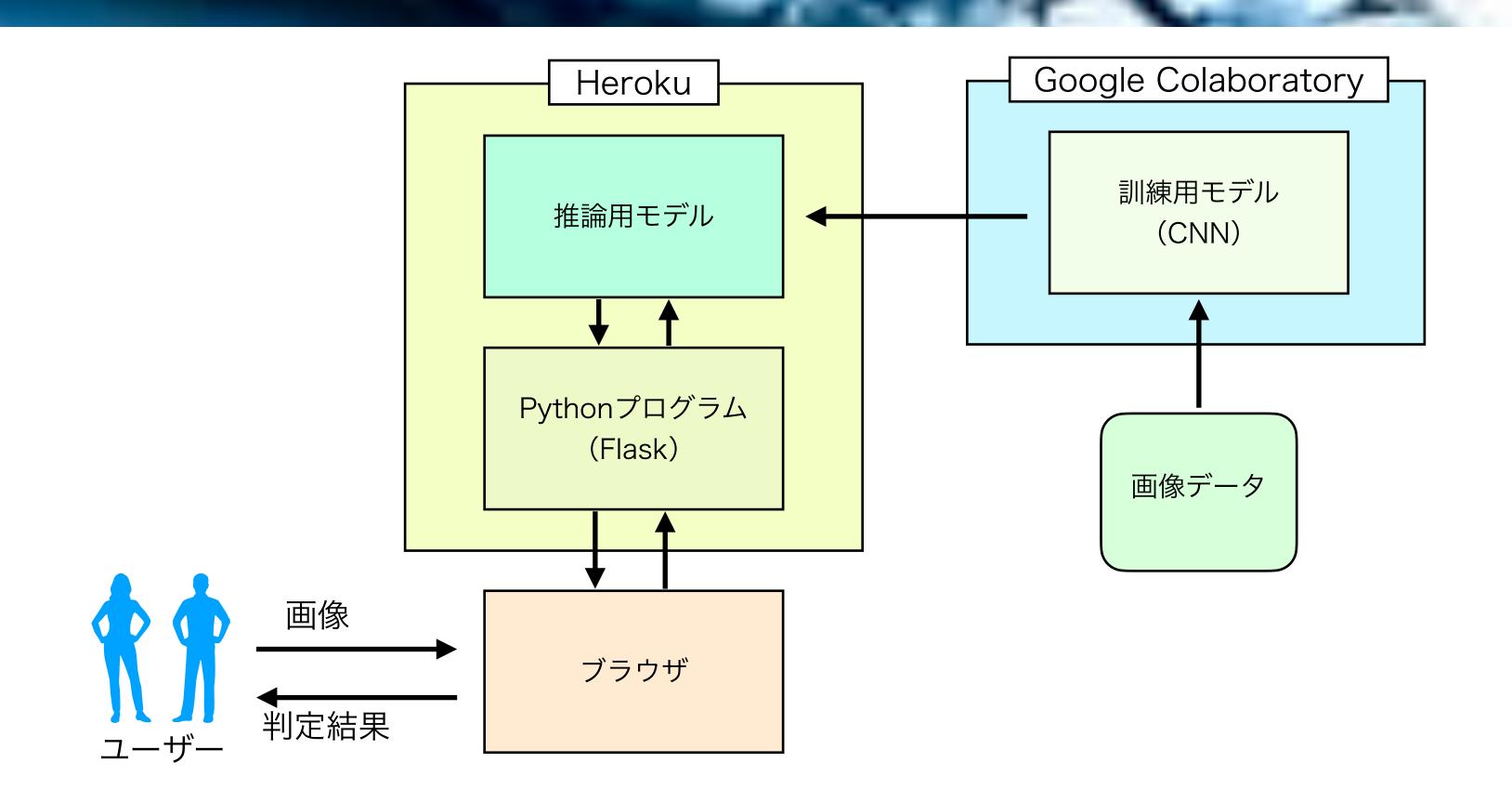
→ Amazonの最新技術を利用可能。オプションが豊富だが、ノウハウと経験が必要。

Microsoft Azure

→ AI機能が充実。モデルの構築や各種訓練、デプロイが簡単に行なえる。

etc...

本セクションで作るWebアプリの構成







開発環境

Anaconda

- → 様々な外部のパッケージをあらかじめ内蔵
- → 仮想環境を使ってライブラリを楽に管理できる
- → 今回はPython3.7を選択

Visual Studio Code

- → 最も人気のあるソースコードエディタの1つ
- → 高機能で様々なプログラミング言語に対応

必要なライブラリ

- Flask==1.1.2
- Jinja2==2.11.2
- Werkzeug==1.0.1
- gunicorn==20.0.4
- numpy==1.18.1
- Pillow==7.1.2
- torch==1.3.1
- torchvision==0.4.2

PyTorch(torch)はCPU版を使用

http://download.pytorch.org/whl/cpu/torch-1.3.1%2Bcpu-cp37-cp37m-linux_x86_64.whl







演習

課題: オリジナル画像認識アプリの構築

- 訓練データ
 - → TORCHVISION.DATASETS

 https://pytorch.org/docs/stable/torchvision/datasets.html
- Webアプリの構築
 - → Flaskでオリジナル人工知能Webアプリを構築し、

Herokuで公開する

